

# ひびきあい

## 「これでいいのだ!」に学ぶ生き方

(二宮金次郎のいる学校)



校長 岡田 克己

6年生が、「日光・赤城宿泊体験学習」に行ってきました。テレビもゲームもない、友達と過ごすだけの2泊3日。でも、見聞きすること・体験することがみんな楽しかった3日間。事前の準備も大変だったでしょうが、頑張った分だけ喜びも大きい。意欲と自信にみなぎっている勉強は、みんな楽しいのです。だから、張り切って学ぶことが大切なのです。

この後も、〈自分のよさ・友達のありがたさ・自然の素晴らしさ〉を見つけに、6月には5年生が清水に、7月には5・6組が上郷に、9月には4年生が愛川に、1泊2日に出掛けます。それまでの準備の充実が、成功体験をより大きなものにします。



2年生の教室の前には、花壇や造形砂場があります。道路をはさんだ向こう側にも、小さな畑や花壇、ピオトープがあります。そこは、「2年生の世界」。いろいろな植物を植え日々世話をし、生長を観察しています。自分たちの空間だから、先生と一緒にのびのびと生き生きと活動しています。周りのものみんな学習材です。



3年生は、「まち」のことを学ぶため、学校を出てよく歩いています。日頃見慣れたはずの通学路ですが、次から次へとおもしろいものや場所を発見。物事は、目的意識的に見なければ、見れども見えず。「気づく」ことそのものが学習の楽しさです。気づくことを通して、苦労や工夫や素晴らしさが見えてきます。だから、「まち」へ飛び出すことは価値があるのです。



1年生は、日々学習。もめ事も勉強の一つ。額に汗して頑張っています。毎日が劇的に過ぎていきます。「今日は何が楽しかったの?」と、ぜひ聞いてほしいです。



大相撲夏場所が終わりました。連日国技館は満員御礼。注目の照ノ富士は初日から佐田の海に星を落とし白鵬にも負け、今場所は駄目だなと思わせてからの『初優勝』。大関昇進のハードルはみるみる下がり、大関を確定しました。大相撲の決めごととはゆるくて楽しいものです。実に都合よく運用されて、無事に新・大関誕生。



横浜 DeNA ベイスターズが絶好調です。が、ファンはいつも裏切られているので、ぬか喜びはしません。負けが込んでくると「こうなると思っていた」と、謙虚です。弱くてもいいと言い切る潔さ。さすが、史上もっとも負け数が多い球団のファン。



すべての出来事・存在をあるがままに、前向きに肯定し、受け入れることは大切です。それによって後ろ向きな、自信のない世界から解放され、軽やかになり、その時その場が異様に明るく感じられます。このことを漫画家の赤塚不二夫さんは見事に一言で言い表しました。すなわち『これでいいのだ!』と。(葬儀でのタモリさんの弔辞より)

今の自分に胸を張り、「これでいいのだ!」と言える生き方をしたいと思います。